

2ZA-4

学校給食における食育・地産地消サポートシステムの構築と評価

古川 恵理奈 佐々木 淳 山田 敬三 田中 充 船生 豊

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

1. はじめに

近年、食生活の乱れや食の安心・安全問題等が取り上げられるようになるにつれて、食に対する意識・知識等の総合的な教育である“食育”や、地元で生産された生産物を地元で消費する“地産地消”の取り組みが活発になってきている。平成17年成立の食育基本法[1]では、学校給食を「生きた教材」として活用し、学校給食での地産地消を推進しており、各地の小中学校で様々な取り組みが行われている[2]。しかし、学校給食を活用した食育や地産地消は、単に給食に地場産物を取り入れたり、栄養バランスを考慮した給食を提供したりするだけでは、その意図を十分に生徒に伝えることは難しいということがヒアリング調査により判明した。そこで本稿では、毎日の給食を通し、生徒・栄養士・生産者がコミュニケーションをとることで、生徒への食育・農業理解や、調理・生産に関わる方々のやる気支援を行う「食育ネット」を提案する。また、提案を元にシステムを構築し、実際に2つの地域で行った実証実験の結果についても述べる。

2. 食育ネットの提案

システム利用者は、学校給食センター（以下「センター」）の栄養士、給食に食材を提供している生産者、給食を食べている小学生の3者である。この3者間で図1に示すシステムを利用したコミュニケーションをとることで、食育や農業理解のサポートを目指す。そのための機能として、以下の機能を提案する。

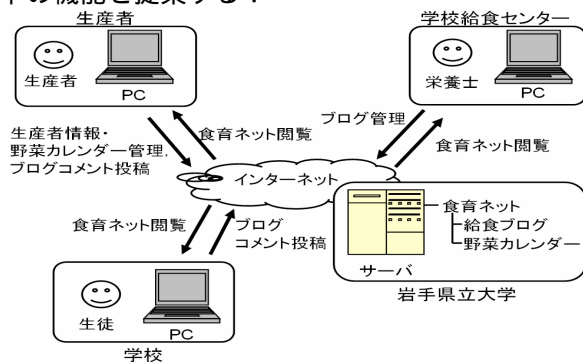


図1 システム構成図

Implementation and Evaluation of a System for Supporting Dietary Education and Local Production for School Lunch

Erina FURUKAWA, Jun SASAKI, Keizo YAMADA, Michiru TANAKA, Yutaka FUNYU
Faculty of Software and Information Science, Iwate Prefectural University

2.1. 機能

(1) 給食ブログ

センター側からは、ブログの投稿・編集や、コメントの投稿・削除など、ブログとコメントの管理ができる。生産者・小学生側からは、ブログの閲覧と、コメントの投稿ができる。この機能により、実際に学校へ出向かなくても、給食に込められた思いやねらいが生徒に届き、普段聞く機会が少ない生徒一人一人の声をセンターや生産者の方々に届けることができる。

(2) 野菜カレンダー

生産者側からは、収穫可能な月の、生産している生産物の名前・収穫時期（1ヶ月を4週にわけ）・収穫量（たくさん採れる週、採れない週×の様に選択入力）を登録、管理できる。センター・小学生側からは、生産者側が入力した生産物情報の閲覧が可能である。この機能により、センター・小学生側に地元の生産物の種類や旬の理解を促し、地産地消の活性化が期待できる。

以下に給食ブログと、野菜カレンダーの画面例を図2、図3に表す。

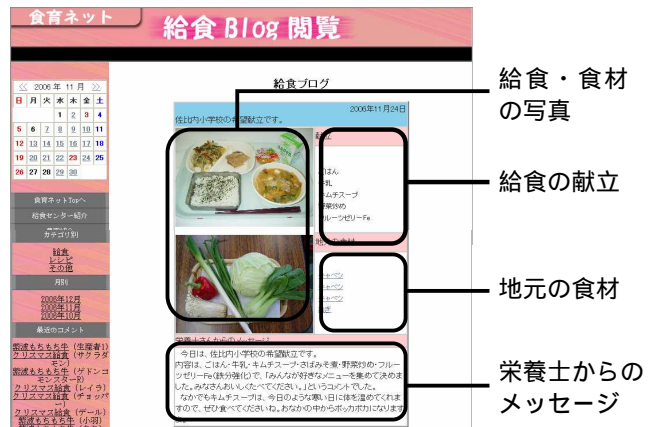


図2 給食ブログの画面例

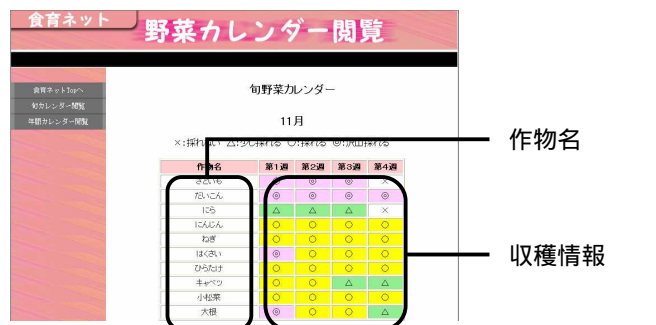


図3 野菜カレンダーの画面例

3. 実証実験

本システムの有効性を確認するために、岩手県内の2つの地域で、地場産物を給食に利用しているセンターと地場産物を提供している生産者、そして小学生（対象3～6年生）に対し、約2ヶ月間表1、表2のような実験を行った。

表1 八幡平市実証実験
(平成18年8月25日～10月31日)

対象	実施内容
松尾地区 学校給食センター	<ul style="list-style-type: none"> 初期データ（センター職員の名前・メッセージ）を記入 給食ブログを毎週金曜日更新 コメントは自由に記入
物産館アスピーテ (生産者をまとめている産地直売所の職員と、生産者が食育ネットを使用)	<ul style="list-style-type: none"> 初期データ（生産者の提供している生産物データ・メッセージ）を記入 給食ブログを毎週火曜日更新 コメントは自由に記入
松野小学校 (6年生：28名)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週火・金曜日の昼休みを利用し、コメントを記入

表2 紫波町実証実験
(平成18年10月24日～12月15日)

対象	実施内容
紫波町 学校給食センター	<ul style="list-style-type: none"> 初期データを記入 ブログを自由に更新（毎週1回は必ず更新する） コメントは自由に記入
学校給食組合 (組合の中心的存在の方が食育ネットを使用)	<ul style="list-style-type: none"> 初期データを記入 コメントは自由に記入
片寄小学校 (3～6年生：57名)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日の休み時間等を利用しコメントを記入

4. 実験結果と考察

上記の2つの地域で実験後行ったアンケート結果を表3、表4、表5に示す。

表3 児童アンケート結果（有効回答：76件）

質問	回答（そう思う）
Q1 生産者・センター職員に対し感謝の気持ちが湧いた	96%
Q2 以前より食べ残しが減った	66%
Q3 食育ネットの利用を続けたい	95%

表4 センター職員アンケート結果（有効回答：4件）

質問	回答（そう思う）
Q1 機会がない等の理由で伝えられなかった事を伝えられた	3人
Q2 食育に効果があったと感じた	4人
Q3 ブログを通したコミュニケーションがやる気につながった	3人

表5 食育ネットを利用した感想

児童の感想
<ul style="list-style-type: none"> いつ野菜がどれくらいとれるのかわかった 生産者とセンターの人が身近に感じた 栄養士や生産者の苦勞がわかった もっと色々なことを詳しく知りたい
センター職員の感想
<ul style="list-style-type: none"> 料理のいわれや食材・生産者の思い・調理上の注意など栄養以外の食の関わりが見え、知る事ができたと思うし、こちらからも児童の視点がみられて素晴らしい 期間がもっと長ければもっと生産者・調理の声を伝えられたと思う

これらのアンケート結果から、本システムは、児童に食に関心を持たせ、生産者やセンター職員を身近に感じることができ、感謝の気持ちや食べ残しを減らすといった行動上の効果が現れるということがわかった。また、継続的に利用することで、より教育的効果が現れると期待できる。また、ブログを通したコミュニケーションによりセンター職員のやる気につながったことも確認できた。しかし、現段階では生産者の多くがパソコンの操作ができず、パソコンを利用した本システムの参加には難しい。また、小学校ではモラルの未発達等の問題により、教師など大人の立会い無しには本システムを利用できないという問題があり、体制・ルール作りをする必要がある。そして、センターでは普段の仕事の上に給食ブログの投稿となると負担がやや大きく、長期利用を求めるには負担を軽減できる様な新機能の提案が必要となる。

5. まとめ

本稿では、給食を通して、食育や地産地消の促進をサポートするシステムとして「食育ネット」の提案と構築を行った。本システムは、岩手県内の2つの地域に導入し、小学生への食育の有効性と課題を確認した。

謝辞

岩手県紫波町で行われた実証実験は、(財)地域総合整備財団（ふるさと財団）および紫波町様の助成を受けて実施したものである。また、研究にご協力頂いた、八幡平市、紫波町の関係各位には厚く御礼を申し上げます。

参考文献

- [1]食育・食生活指針の情報センター：
<http://www.e-shokuiku.com/>
[2]農林水産省：なぜ？なに？食育！！、
<http://www.maff.go.jp/syokuiku/>